

音楽科学習指導案

日	時	平成 30 年 6 月 1 日 (金)	第 1 校時
対	象	1 年 2 組	3 6 人
指	導	者	教 諭 徳 永 賢 子

1 題材 「日本の伝統音楽に親しもう」

2 指導目標

- (1) 箏の特徴に関心をもたせ、様々な奏法や音色とそれらが醸し出す雰囲気と関わらせながら表現し、鑑賞する学習に主体的に取り組もうとする態度を育てる。
- (2) 箏の音色、平調子による旋律、構成を知覚させ、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら、箏の特徴を感じ取って音楽表現を工夫させ、どのように演奏するかについて思いや意図をもたせる。
- (3) 箏の特徴を捉えた音楽表現をするために必要な、基礎的な奏法などの技能を身に付けさせる。
- (4) 箏の歴史や楽曲の生まれた背景について理解させ、音楽を形づくっている要素や箏独特の奏法から醸し出される雰囲気を感じさせながら、日本の伝統音楽のよさや美しさを味わわせる。

3 題材の評価規準

- (1) 我が国の伝統楽器である箏の表現の多様さと豊かさに関心をもって、主体的に学習に取り組んでいる。
- (2) 箏の音色、平調子による旋律、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら、箏の特徴を感じ取って音楽表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。
- (3) 箏の特徴を捉えた音楽表現をするために必要な、基礎的な奏法、姿勢や体の使い方などの技能を身に付けて演奏している。
- (4) 箏の歴史や楽曲の生まれた背景について理解し、音楽を形づくっている要素や箏独特の奏法が生み出す雰囲気を感じ取って、日本の伝統音楽のよさや美しさなどを味わっている。

4 教材

箏の仲間の音楽

- ・ 朝鮮半島「カヤグム」の演奏（「散調」からチャンジモリ）
- ・ 中国「ジョン」の演奏（「平沙落雁」）
- ・ ベトナム「ダンチャン」の演奏（「フォン セン ドン タップ」）

「さくら さくら」（日本古謡）

「六段の調」（伝）八橋検校 作曲

5 題材について

(1) 題材設定の理由

グローバル化が益々進展するこれからの時代を生きる子供たちに、我が国の音楽に愛着をもったり、我が国及び世界の様々な音楽文化を尊重したりできるようになることが求められている。日本の伝統音楽に触れ、その特徴やよさを感じ取り、味わう学習を通して、音楽の多様性を認め、音楽文化についての理解を深めるきっかけにしたい。

本題材で取り扱う学習指導要領の内容は以下のとおりである。

- A 表現・器楽 (2)イ 楽器の特徴をとらえ、基礎的な奏法を身に付けて演奏すること。
- B 鑑賞 (1)ア 音楽を形づくっている要素や構造と曲想との関わりを感じ取って聴き、言葉で説明するなどして、音楽のよさや美しさを味わうこと。
- 〔共通事項〕 (1)ア 音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成などの音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ受けること。

本題材では、日本の伝統的な楽器の箏を取り上げ、主な教材とする。箏は音を容易に出すことができる楽器であり、様々な奏法の工夫によって、豊かな表現ができる。日本の伝統的な音楽の特徴、その特質や雰囲気の美しさを、箏の演奏や鑑賞を通して、より深く知覚・感受させ、豊かな感性を育みたいと考え、本題材を設定した。

(2) 教材について

「箏の仲間の音楽」

日本の箏と同じ発音原理をもつアジア地域の箏の仲間の音楽を比較することで、それぞれの特徴や共通点、相違点などをとらえ、音楽の多様性を感じ取ることができる。

- ・ 「カヤグム」は朝鮮半島を代表する弦鳴楽器のひとつで、中国の箏の影響を受けて作られた。日本にも奈良時代に新羅琴という名前で伝えられており、現在も正倉院に保存されている。爪をはめずに指で直接弾いたりなでたりして音を出す。弦が緩く張られているために日本の箏よりも音の響きが低く、余韻と深みのある独特な音色をつくりだす。奏法による音色の違いを明確に聴き取ることができる。
- ・ 「ジョン（グージョンとも呼ばれる）」は中国の弦鳴楽器で、日本の箏と同属の楽器である。金属弦が張られているので、大きな音を響かせることができる。金属弦による音色、五音階による旋律を聴き取ることができる。
- ・ 「ダンチャン」はベトナムの弦鳴楽器で、やはり日本の箏と同属の楽器である。音の余韻を変化させる奏法などは、日本の箏やカヤグムと似ているが、金属弦から生み出される音色は明るく澄んでおり、南国らしい雰囲気や曲想を感じ取ることができる。

「さくら さくら」

この曲は、代表的な日本古謡で、作詞・作曲者は不明であるが、江戸時代に箏曲の手ほどきの歌として作られたと伝わっている。日本人に親しまれ、様々な演奏形態でアレンジされており、日本の代表的な歌として、国際的な場面で歌われることも多い。小学校4年生の歌唱共通教材であり、生徒にとって、箏の入門編として取り組みやすい教材である。独奏曲は平調子で、弾きやすく、きれいな音で響きやすい高音部の弦を主に用いた編曲になっている。本題材では、一面の箏を3人で演奏する、三重奏を取り扱う。独奏曲にはないピッツィカートや流し爪の奏法が用いられており、奏法による音色の違いに関心をもたせることができる。また、弾き歌いも加えたアンサンブルを楽しむことができ、日本の伝統音楽への興味・関心を高めることができる教材である。

「六段の調」

この曲は、言葉を伴う曲が多い古典音楽としては珍しく、純器楽曲であり、八橋検校の作と伝えられている。6つの段から構成される「段物」であり、二段以降は初段の旋律が変奏的に扱われている。曲はゆっくり始まって、段が進むにつれて次第に速くなり、緩やかになって終わるという「序破急」の形式をもつ。また、箏の奏法として基本的な「押し手」や、「流し爪」、「引き色」、「後押し」等の奏法が多く使われており、箏そのものの音色と奏法による音色の変化、間、序破急、平調子など箏の特徴や魅力を捉え

るのに適した曲である。

(3) 生徒の実態について

今回の学習に取り組むに当たって、生徒の音楽に対する実態の一面を知るために、次のようなアンケートを実施した。(4月17日 36人 実施)

1 日本の伝統音楽の学習について

楽しみ・どちらかというと楽しみ (32人)

どちらかというと楽しみでない (4人)

[理由]

- ・ 日本の音楽は心が落ち着く
- ・ 日本の伝統楽器の響きが好き
- ・ 箏が好き
- ・ 音程がおもしろい
- ・ 小学校でソーラン節を踊った
- ・ 日本の音楽に興味がある
- ・ 日本の音楽をあまり聴いたことがない
- ・ 昔の人がどんな音楽を好んでいたか知りたい
- ・ 新しいことを知るのが楽しみ
- ・ 歴史を感じられる
- ・ 音楽が好き

[理由]

- ・ 音楽があまり得意ではない
- ・ 日本の音楽があまり好きではない
- ・ 日本の音楽は眠たくなる

2 日本に昔から伝わる音楽を聴いたり、演奏したりしたことがありますか。

ある (34人)

ない (2人)

【聴いたり、演奏したりした曲】

- ・ さくら さくら
- ・ ソーラン節
- ・ おはら節
- ・ こきりこ節
- ・ 越天楽今様

3 日本の伝統楽器を演奏した経験がありますか。

ある (19人)

ない (17人)

[経験した楽器]

箏 (17人) 和太鼓 (11人) 尺八 (2人)

4 グループ学習は好きですか。

好き・どちらかというと好き (34人)

どちらかというと嫌い・嫌い (2人)

- ・ いろいろな考えを聞けるから
- ・ 友達の意見を聞いて、考えを発展させられるから
- ・ ひとりでやるより自信がつくから
- ・ みんなで協力するのが楽しいから

- ・ あまり話に参加できないことがあるから

本学級の生徒は、入学してからそれほど多く日にちが経っていないためか、発表の様子など、まだ互いに遠慮している一面が見られる。しかし、音楽の授業は全員が「好き」、または「どちらかというと好き」と答え、朝の会・帰りの会でも美しい響きで歌っている。今回の日本の伝統音楽の学習については、ほとんどの生徒が楽しみにしている。理由としては、日本の伝統音楽に対するプラスのイメージをもっていることや、新しい音楽に対する期待が多く挙げられ、小学校で充実した音楽体験を積み重ねていることが伺える。箏の構造や歴史について知ること、奏法による音色の変化をつかむなどの箏の特徴についての学習は、日本の音楽への興味・関心を更に高め、多様な音楽のよさや美しさを味わわせることにつながると考える。また、グループ学習については、肯定的な考えをもつ生徒が多い。協働的な活動の場を効果的に設定することで、本題材のねらいに迫っていきたい。

(4) 指導に当たって

生徒の実態を踏まえ、本題材を扱うに当たり、次のようなことに留意して学習を進めていきたい。

ア ICTを活用し、箏独自の音色や奏法を探る活動を自分たちのペースで進められるようにして、学習に対する能動的な態度を育てたい。

イ グループで、アンサンブルを演奏する活動や、箏の音色・奏法について探り、箏の特徴やよさについて話し合う活動等、協働しながら考える場面を設定し、音楽によるコミュニケーションの活性化を図りたい。

ウ 個別に指導したり、グループにアドバイスしたり、基礎的な箏の技能が身に付けられるようにしたい。

エ 授業を振り返らせる自己評価カードを記入させることによって、個の進捗状況やつまづきを見取り、個の支援に生かしたい。

6 指導計画（全5時間）

時	主な学習活動	教材	単位時間における評価規準			
			音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
1	1 アジアの箏の仲間と日本の箏の演奏を比較して聴き、日本の音楽の特徴を感じ取る。 2 箏の構造や調弦について知る。	箏の仲間の音楽	箏の特徴や音楽の多様性に関心をもち、主体的に学習している。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ受している。		箏の歴史や楽器の構造について理解し、音楽の特徴を知覚・感受して、聴いている。
2・3	1 箏の初歩的な奏法や読譜の仕方を身に付ける。 2 唱歌を歌って、旋律のまとまりや全体の流れを感じ取る。 3 「さくら さくら」を演奏する。 4 「さくら さくら」をグループで役割分担をし、アンサンブルを行う。	さくら さくら	箏の音色や奏法に関心をもち、基礎的な奏法で主体的に演奏しようとしている。		箏の特徴を捉えた音楽表現にするために必要な、基礎的な奏法や読譜の仕方などの技能を身に付けて演奏している。	
4 (本時)	1 「六段の調」の奏法に着目して聴く。 2 グループで意見を出し合う。 3 箏の様々な奏法を確かめる。 4 箏の特徴やよさについて自分の言葉でまとめる。	六段の調	箏の表現の豊かさに関心をもち、主体的に活動に取り組んでいる。	箏の音色や奏法などの特徴を知覚・感受しながら、音楽表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。		様々な奏法による音色や響きの変化を聴き取り、それらが醸し出す雰囲気を感受し、箏の特徴やよさについてまとめることができる。
5	1 これまでの学習内容を振り返る。 2 「六段の調」の作曲者、八橋検校や曲の生まれた背景について知る。 3 「六段の調」の全曲を鑑賞し、紹介文を作成する。 4 紹介文を発表する。		箏の音色や奏法、「六段の調」の音楽的な特徴や曲想に関心をもち、主体的に取り組んでいる。			曲の生まれた背景を理解し、音楽的な特徴を感受して、よさを紹介文にまとめることができる。

7 本時の実際

(1) 授業設計上の工夫

ア 「創造的な学び」を支える3つの活動

(ア) 考えを拡げさせる指導の工夫

- ・ 奏法を聴き取り、実際の楽器で確かめる、鑑賞と表現の両方の活動を行うことで、知覚・感受が拡がり、音楽を多角的に捉えられるようになることをねらいとした。
- ・ タブレットで様々な奏法を比較し、音色の変化を聴き取らせ、実際に楽器での奏法を試行させて、演奏効果を体感させたい。
- ・ ゲストティーチャーによる演奏を鑑賞させる。間近で生の演奏に触れることで、日本の音楽独特の雰囲気や特徴、箏の様々な奏法による音色を味わわせたい。

(イ) まとめさせる指導の工夫

学習の気づきや近く・感受したこと、考えの拡がりや可視化したワークシートを作成した。箏の魅力を自分の言葉でまとめさせることにより、学んだ知識や技能を結び付けて思考を整理させ、第5時の学習内容である「六段の調」の紹介文の作成につなげたい。

イ 「能動性」・「独自性」を育む指導と評価の工夫（I C Eモデルを用いた指導と評価の工夫）

I C Eモデルを基に本題材のルーブリックを作成し、ワークシートに活用した。学びの段階を理解しやすくすることで、生徒は自らの現状を把握し、能動的に学習に臨もうとすることねらいとする。

ウ 「協働」の視点を取り入れた指導の工夫（協働的な活動を生かした授業におけるリーダーの育成の工夫）

聴き取った奏法について話し合う活動、実際の楽器で奏法による音色の変化を確かめる活動にリーダーを中心として行わせる。リーダーには「リーダーの心構え」「アンサンブルのポイント」の資料を活用して、事前に指導しておく。

(2) 本時の指導目標

ア 箏の表現の豊かさに関心をもたせ、グループで箏の音色や奏法を探る学習や、演奏を聴いて箏の特徴やよさをまとめる学習に主体的に取り組ませる。

イ 箏の音色や奏法などの特徴を知覚・感受させながら、音楽表現を工夫させ、どのように演奏するかについて思いや意図をもたせる。

ウ 様々な奏法による音色や響きの変化を聴き取らせ、それらが醸し出す雰囲気を感じ取らせて、箏の特徴やよさをまとめさせる。

(3) 本時の評価基準

ア 箏の表現の豊かさに関心をもって、主体的に活動に取り組んでいる。

イ 箏の音色や奏法などの特徴を知覚・感受しながら、音楽表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。

ウ 様々な奏法による音色や響きの変化を聴き取り、それらが醸し出す雰囲気を感じ取って、箏の特徴やよさについてまとめることができる。

(4) 本時の展開 (4/5)

過程	時間	主な学習活動	形態	指導上の留意点 (◆は評価の観点)
導入	5分	1 「さくらさくら」を演奏し、前時の内容を想起する。	グループ	1 箏の基本的な奏法や姿勢に気を付けて「さくらさくら」を演奏させる。
		2 本時の学習課題と学習の流れを知る。 日本の伝統楽器として親しまれている箏は、どのような特徴やよさがあるのだろうか	一斉	2 演奏を通して感じたことや興味をもったことなどに触れながら、学習課題を引き出す。 3 「さくらさくら」と「六段の調」を比較させ、奏法の違いによる多彩な表現を感じ取らせ、気付きを引き出す。 (実践編 1 pp42～43)
展開	25分	4 「六段の調」にはどのような奏法があり、音色の変化や雰囲気の違いがあるか聴き取る。	個人 一斉	4 リーダーを中心に話し合いをさせる。「リーダーの心構え」を事前に指導しておく。 (実践編 1 pp90～91) ◆評価 ウ
		5 グループで意見を聞き合う。	グループ	5 聴き取った奏法を、実際に楽器で演奏して、確かめさせる。 ◆評価 ア・イ
		6 動画から奏法を探し出し、実際の楽器を奏でながら聴き比べて、音色の変化を確かめる。	グループ	6 各グループにタブレットを用意し、動画を見ながら、奏法による音色の違いを聴き比べ、実際に楽器で音色を確認させる。 (実践編 1 pp42～43) ◆評価 ア・イ
	15分	7 ゲストティーチャーによる「六段の調」の演奏を鑑賞して、演奏効果を聴き取る。	個人	7 演奏を鑑賞して、奏法とその音色の変化や雰囲気を感じ取らせる。 (実践編 1 p42) ◆評価 ア・ウ
終末	5分	8 再び、楽器で奏法による音色の変化を確認し、演奏効果を感じ取る。	グループ	8 自分たちで奏法による音色の変化を再確認させ、演奏効果を体感させる。 ◆評価 ア・イ・ウ
		9 箏の特徴やよさについて自分の言葉でまとめる。	個人	9 「楽器の魅力」を伝える観点を参考に箏の特徴やよさについてまとめさせる。 ◆評価 ウ (理論編 2 p18)
		10 本時の学習を振り返り、自己評価をする。 11 次時の予告を聞く。	一斉	10 I C Eモデルを活用した評価表で学習の振り返りをさせる。 (実践編 1 pp64～65) ◆ 評価 ア・イ・ウ